

# ガンマナイフ治療最前線情報

2021年11月発行 第107号

微小血管減圧術後の再発舌咽神経痛に対する救済ガンマナイフ手術：後方視的な症例シリーズ

Songshan C, Hao X, Dongdong X, Jiajing W, Yihao W, Junjun L, Peng F, Hendrik P, Nanxiang X

Salvage gamma knife surgery for recurrent glossopharyngeal neuralgia following microvascular decompression: a retrospective case series.

Acta Neurochir(Wien). 2021 Apr;163(4) ;1021-1026.doi:10.1007/s00701-020-04654-6.Epub 2020 Nov 20.

## 概要

背景：微小血管減圧術(MVD)は薬剤抵抗性の特発性舌咽神経痛(GPN)に対して好ましい治療法として認識されていますが、MVD後の再発GPNの管理については、現在の文献ではほとんど言及されていない。本研究では、MVD後の再発GPNにおける救済ガンマナイフ手術(GKS)の有効性と安全性を実証することを目的としている。

方法：2012年10月から2018年1月にかけて、MVD後に再発したGPNに対して救済GKSを行った患者は7名（男性3名、女性4名）で、そのうち初回の救済GKS後に痛みが再発して再度GKSを受けた患者が2名含まれている。年齢の中央値は、初回GKSで69歳（範囲49～81歳）、2回目のGKSで72歳（67歳、77歳）であった。照射線量は、1回目のGKSで80または90Gy、2回目のGKSで90Gyであった。痛みの評価は、Barrow Neurological Institute(BNI)のスコアに基づいて行った。

結果：初回GKS後の追跡期間の中央値は68カ月（範囲29～89カ月）、2回目GKS後の追跡期間は45カ月（56カ月、33カ月）であった。痛みが改善するまでの期間の中央値は24日（範囲は6日～80日）であった。1人の患者が1回目のGKS後に口蓋

骨の近く過敏を経験したが、2回目の GKS 後には合併症は見られなかった。最後のフォローアップでは4人が BNI I、1人が BNI II、2人が BNI IIIa であった。

結論：救済 GKS は、初回の救済 GKS 後に痛みが再発した患者であっても、MVD 後に再発した GPN の治療に安全かつ有効である。

COVID-19 パンデミックに直面したガンマナイフアイコン定位放射線手術プログラムの適応

Rodney EW, Zachary DH, Linda X, Alexander Y, Matthew G, Yun L, Jason S, Athanasios C, Russell F, Stephen MK

Adaptation of a Gamma Knife Icon stereotactic radiosurgery program in the face of the COVID-19 pandemic.

J Radiosur SBRT.2020;7(1):5-10

## 概要

目的： COVID-19 のパンデミックは放射線腫瘍学の分野全体に劇的で急激な変化をもたらしたが、その中には放射線手術の分野に特有のものもあった。ガイドラインでは、フレームの使用を減らし、分割の数を減らすことが求められた。私たちの施設ではこれらのガイドラインを実施し、その結果、ガンマナイフ・アイコンのプログラムでの患者の治療にどのような影響があったかを示す。

方法： 2020年3月初旬、我々は COVID-19 時代の定位放射線手術に関する ASTRO やその他のコンセンサスガイドラインに沿って提案された変更を迅速に実行した。我々は 2020年1月1日から4月30日までの間に当施設で行われた GK アイコンのスケジュールを確認した。年齢、治療したときの状態、手技（フレーム対マスク）、分割回数を記録した。そして、患者数、フレーム症例数、分割照射数を集計し、グラフ化した。

結果： この期間に GK アイコンで治療を受けた患者数は 77 名、合計 231 回の分割が行われた。患者数は 18 人（4月）から 22 人（1月）まで様々であった。77 人の患者のうち、フレームを使用した患者は 5 人だけであった。月あたりの分割回数は、1月の 70 回から 4月の 36 回へと、時間の経過とともに大幅に減少した。同様に単回照射の症例の割合は、1月の 4.5%から 4月には 67%に増加した。

結論：ここに示した結果は、世界的な大流行の際に、分割回数やフレームの使用を減らすことができるように、ワークフローを迅速かつ効率的に変更することが可能であることを示している。このようなプログラムを成功させるには、多分野の協力と継続的なコミュニケーションが不可欠である。

もみのき病院 高知ガンマナイフセンター

〒780-0952 高知県高知市塚ノ原6-1

TEL : (088) 840-2222

FAX : (088) 840-1001

E-mail : mail@mominoki-hp.or.jp

URL: <http://mominoki-hp.or.jp/>

担当医：森木、道上、藤田 事務担当：蒲原